

ユース世代によるジェンダー平等実現に向けた将来展望

「参加」から「協働」へ

CSW70で見た、
Meaningful Youth Engagementの重要性

国連女性の地位委員会（CSW70）日本ユース代表
小阪 ゆき乃

奈良女奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科
生活文化学専攻 博士前期課程 2 年

第 6 次男女共同参画基本計画と第70回国連女性の地位委員会等について聞く会
令和8年8月7日（金）14時00分～15時30分



1 CSW70に参加して見えてきたこと



Access to Justiceの複合性

法制度・文化・言語・経済格差が絡み合う、
社会権力構造の課題

→一つの主体や視点では解決できない問題



インターセクショナルリティの視座

多様な差別の交差性に着目する必要性
EX) グローバルノース主導の会議等の存在

→当事者の実践×理論による課題構築の重要性



Multi-Stakeholder Approach : Meaningful Youth Engagement

若者を単なる参加者ではなく、政策形成・意思決定の持続的なパートナーとして位置付ける

→社会全体で課題解決に取り組む「Whole-of-Society Approach」に繋がる

重要な主張：当事者視点から始まる法制度

●私的・公的空間の両方へのアプローチ

：「個人」の問題を「社会」の問題に言語化する必要性

●理念で終わらない、実践的な法制度の拡充

：選択的夫婦別姓・包括的性教育・政治分野におけるクオータ制などの重要性

●ジェンダー主流化

：ジェンダー課題は一部の性別の問題ではなく、権力の所在を問う問題

：公私にわたる意識改革と制度変革は、社会全体の責任として位置づけられるべき



2 ユース代表インタラクティブダイアログ（3月16日）：発展

ジェンダーギャップ指数

148カ国中118位

管理的職業従事者に占める女性の割合*

16.3%

【背後にある当事者の声】：制度が機能する「仕組み」をつくる重要性

「男性育休…みんな取りたくても我慢しているのに」 → （パタニティ・ハラスメントの存在）

「女性が昇進してもどうせ肩身がせまい」 → （ロールモデルの不足）

「私が苗字を変えることを親せきが誰も問題にしない」／「（苗字の変更は）家族の『付属品』のような意識をもたらす」
→ （「負担」の不可視化・アイデンティティの喪失）

「パートナーと性のことをどう話せば良いかわからない」／「DVの相談は恥ずかしい」
→ （人権の「実践」のための包括的性教育の必要性）

「匿名のハラスメントが怖くてSNSでは活動できない」
→ （デジタル空間における人権侵害、規制やリテラシー教育の重要性）

3 国際交流から生まれる連帯感

当事者性からつながるネットワーク

アドボカシーに国際連帯は不可欠。
互いの経験を共有し、現在のデータを分析し、未来へつなぐ視点を交換することが重要。

日本ユース代表団と カナダ・McGill大学ユース代表団（MYAD）との 自主会合（事前MT・当日会合）

- 水の安全保障と女性の意思決定参加
- 家庭内暴力と加害者支援
- 女性主導NGOへの援助撤退とその影響
- テクノロジーと女性への暴力
- 性教育の国際比較
- ジェンダー主流化の障壁

その他の交流の様子



今後に向けて①：ユースの参加意義を再考する

ユースは国際的ジェンダー課題を生活レベルへ翻訳し、
多様な人々を議論へつなぐ架け橋となる。



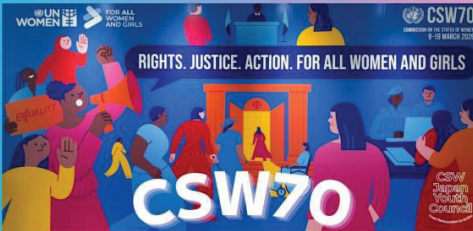
学内外における報告会の実施やメディアでの発信

- ユースによる発信は、国際的な議論を社会へ届け、ジェンダー平等への関心と対話の裾野を広げる。
- ユースによる持続的な広報活動と、
政府・市民社会等を巻き込んだ継続的な発信・対話の仕組みづくりが重要。

今後に向けて②：ユースの参加意義を再考する

国内ユースの連帯強化：興味関心・学びを深め、発信する

CSW日本ユース協議会（@csw_jpyouth）による報告会の実施



CSW70 ユース報告会
2026年7月5日(日) 午前 9:30-11:00
(日本時間)

開催形式 オンライン (Zoom、参加費無料)
対象 過去に現地参加された方、今後参加を考えている方など
CSWに関心のある方ならどなたでも
言語 日本語
申込方法 右の二次元コードより7月3日(金)までに
お申し込みください

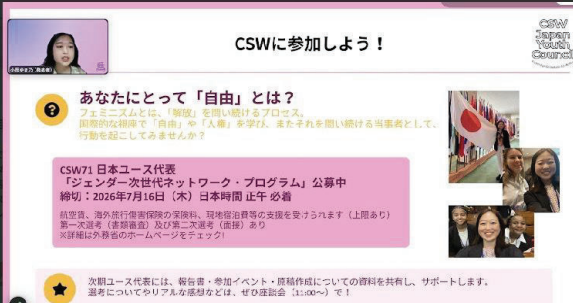
PROGRAM

1. CSW・CSW70とは
2. CSW70現地派遣ユースによる報告

・小堀中子ユース代表 (奈良女子大学大学院)
・岩崎香織 (日本BPW連合会)
・高井希聖 (日本BPW連合会、ウェルズリー大学)
・白井ふたば (国際女性の地位協会、日本YWCA、
国際ウイメン日本協会、お茶の水女子大学大学院) 他
3. 質疑応答
○交流会 (11:00-11:30) 報告会終了後ユースメンバーとの交流や質疑応答などを企画しております。

CSWとは
CSW (国連女性の地位委員会) は、国連経済社会理事会の
機能委員会の一つとして1946年に設置されました。
事務局を設ける UN Women 等の促進推進機関、各委員国
(加盟国) 政府および NGO などの市民社会組織が参加し、女
性の地位向上についての国際的な政策議論・実施状況の報告
が行われています。
2024年開催のCSW70のテーマは、「司法アクセス」です。

主催・お問い合わせ CSW日本ユース協議会 事務局 japyouthiscouncil.csw@gmail.com



CSWに参加しよう！

あなたにとって「自由」とは？
フェミニズムとは、「解放」を思い続けるプロセス。
国際的な視点で「自由」や「人権」を学び、またそれを思い続ける当事者として、
行動を起こしてみませんか？

**CSW71 日本ユース代表
「ジェンダー次世代ネットワーク・プログラム」公募中**
締切：2026年7月16日 (木) 日本時間 正午 必着

結盟国、海外旅行準備保険の保険料、現地宿泊費等の支援を受けられます (上限あり)
第一次選考 (書類審査) 及び第二次選考 (面接) あり
※詳細は外務省のホームページをチェック！

★ 次期ユース代表には、報告書・参加イベント・展覧作品についての資料を共有し、サポートします。
選考についてリアルな感想などは、ぜひ選考会 (11:00-) で！



csw_jpyouth
CSW日本ユース協議会

CSW日本ユース協議会は、国連女性の地位委員会 (CSW) を通じて、一人ひとりの人権と尊厳が尊重されるジェンダー平等な社会の実現を目指し、日本国内でのCSWの認知度向上や、ユース間の情報共有・交流などに取り組んでいます。

フォロー中 メッセージ

VOICES FROM THE BENCH:
WOMEN SHAPING
INTERNATIONAL JUSTICE

このようなユースの連帯の場から
政府・市民社会との
継続的な「協働」へ。

マルチ・ステークホルダーの「参加」から「協働」へ

次のステップ：「情報交換」ではなく「対話」・「議論」へ

- 異なる立場の参加者が継続的に対話する仕組みを育てる
- 国際会議の学びを国内の実践へつなげる
- 多様な主体がともに政策を考える文化を広げる

ジェンダー平等は、誰か一人の努力では実現できない。政府・市民社会・ユース・企業など、それぞれが異なる役割を持つからこそ、必要なのはその「参加」ではなく「協働」である。

同じ会議室にいるだけでは、多様な主体が互いの知見・役割を活かす「マルチステークホルダー・アプローチ」とはいえない。

それぞれの独立性を維持しつつ、それぞれの持つ情報や視点を適切に共有し、問いを立て、対話を重ねることで、事前勉強会やブリーフィング・報告会等は、政策形成のための学びと協働の場へと変わる。

優先的に取り組むべき3つ

1

年間を通して

次年度ユースへの引継ぎ制度
(資料の共有、引継ぎ会)の公式化

※属人的な取り組みから、継続的な制度へ。

効果

- 専門知識の吸収のスピードアップ
→学ぶ側から思考・発信の立場へ
- 国際的ネットワークの継続的蓄積



低コスト

2

CSW前(中)

政府・NGO等による認識共有の場の充実化

効果

- 日本の立場・現状を共に考える場へ
- 関心テーマの事前共有によって、実りある質疑応答、実効性の高い提言へ

中コスト
まずは簡易版から

3

CSW後

ユース・ダイアログ提言の
トラッキング制度、フィードバック制度

効果

- ユース：単なる「参加」からの脱却
- 次回以降に向けた継続的な原稿改善

高コスト
まずは簡易版から

ご清聴ありがとうございました

CSW70日本ユース代表 小阪 ゆき乃
奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科 生活文化学専攻 博士前期課程 2 年